

大阪大学図書館報

Vol. 15, No. 5/6 February 1982

目

次

- 二人のホームズ
- 研究者（教官・院生等）に対する国立
大学図書館間相互利用（館内閲覧）制
度実施される
- 文部省配分外国雑誌購入費について
- 昭和56年度上半期国立大学図書館間文
献複写実績
- 教官著作寄贈図書
- 本館受入参考図書
- 情報のつまみ食い
- 大阪大学附属図書館機械化
準備委員会発足する
- 会議
- 日程
- 人事

二人のホームズ

矢崎光園

ホームズと言ったら、何を想像するだろうか。あのホルムズ(Hormuz)海峡も似てはいるが、たいていの人が思い出すのはシャーロック・ホームズ(Sherlock Holmes)であろう。名探偵としてワトソン博士との対話をまじえたあの221B、ベーカー街の雰囲気はおそらく少年、少女の頃の、そこはかとない感慨をよびおこすであろう。少年、少女の頃、しかし、すでにその頃ホームズを卒業した人がたいていであろう。しかし、小生はいまだにホームズに未練をなしてゐる。そればかりか、最近、一冊の本が出たのには、おどろいた。題して『シャーロック・ホームズの記号論』(J.A. シービオク、J. ユミカ、シービオク著、富山太佳夫訳、1981年、岩波現代選書)。なぜおどろいたかというと、アメリカの哲学者、チャールズ・サンダーズ・パース(Peirce, 1839—1914)の考え方、とくにその論理的思考をシャーロック・ホームズめいた探偵物の推理にひっかけて書いているからである。では、なぜパースが出たからといって、おどろくのか。それはパースの青年期の活動の一幕、メタフィジシャン・クラブにオリヴァ・ウェンデル・ホームズ(O.W. Holmes, Jr., 1841—1935)がいたからである。もってまわった書き方をしたが、パースを介して、ようやくシャーロックとオリヴァがあらわれてきた。二人のホームズである。約20年もまえから二人のホームズを書こうという着想をもちながら——小人、閑居して不善をなす——、グズついていたところへもってきて、このシャーロック……の本である。まず題名を見て、そうして本を開いてまたドキッとした事情は、少々おわかりいただけたかと思う。

では、オリヴァ・ウェンデル・ホームズとは何者か。さいわいなことに、本年早々『ホーム

ズーラスキ往復書簡集』(M.D. ハウ編、鵜飼信成訳、1981年、岩波現代選書)を手にすることことができた。H.J. ラスキ (Laski, 1893—1950) はロンドン大学の教授であったし、イギリスの有名な政治学者であった。ホームズはといえば、すでに長い人生の道のりを歩み、いまは合衆国最高裁判所判事として多忙の日を送る。ラスキがまだ若いのに、ホームズは、ともすれば、生と死におもいをめぐらし回想にふける老いの身である。ところが、1916年から1935年、つまりホームズの没年まで、よくもまあ二人はひんぱんに手紙を書き腹蔵ない意見の交換をおこなっている（もっとも、本訳書では手紙は1930年代のものに限られる）。

手紙というものは時候の挨拶、とりとめもない日常茶飯事から作品や人物の批評、高度の学問的話題とか、当面ものすごく関心をひく政治状況にまでふれることがあるが、ホームズ・ラスキの場合もご多聞に洩れない。いや、そればかりか、書簡のはしづには自由主義のかげり、新しい勢力の台頭の認識はもちろん、そういった時代と社会が大きく揺れ動く政治状況についても、きらめき輝くような知的洞察、批判が込められている。人はみごとな訳文をとおして、いつかホームズの高度に洗練された思考のあゆみに接するのである。

ここで、ふたたび、たづねてみよう。このようなオリヴァ・ホームズとシャーロック・ホームズとはどうかかわるのだろうかと。オリヴァは血もあり肉もあり、19世紀からほぼ一世紀を生きたアメリカ人である。南北戦争の折りには生死の境をさ迷うほどの重傷を負っている。これにひきかえシャーロックは？ イギリスの作家、A. コナン・ドイル (C. Doyle, 1859—1930) の作品、『緋色の研究』(1887年) 以来、しきりと登場する作品上の人物、架空の人物である。ドイルが自伝でのべるとおり、早くからこの名探偵はまるで実在するかのように一般の人々に親しまれ、いまもなおシャーロッキアン・クラブがあるほど、作者以上に、注目され、魅力をほしいままにしているが、それにしてもシャーロックはシャーロック、フィクション上の人物であって、オリヴァ・ホームズのような生身の人物とは全然、違う。

しかし、それにもかかわらず、と言いたい。オリヴァ・ウェンデル・ホームズが経験を重んじつつ（「法の生命は論理ではなく、経験であった」。「裁判所が實際におこなうであろうことについての予言、……それこそ私が法という言葉で考えているものである」）、鋭い感覚で事態を見つめ、高い説得力をもって理路整然と思考をすすめ、推論し、人々の法への求めにも、バランスを保ちながら、たくみにこたえようとしたあたり、時に貴族趣味的雰囲気はあっても、あの架空の探偵が作品中で実際に演じてみせる行動や推論と比べてみると、どこか何かを感じさせるものがあるのでは？

どこか何かというものが相互の近似性をさしていることはいうまでもない。[※]現に生きた人物を架空の人物と比べること自体、バカげているかもしれない。だが、血もあり肉もある人物が、いまも、観念の網の目で躍っているのはたしかだろうし、作品も人間の営みの昇化だと見れば、この比較、けっこう、いけるのではないか。いま、もし、グラスを傾けながら、人間の思考や発想、推論、そして生きざまを考えてもみよう。彼らの足跡は、存外、興味をそそる。この二人のホームズ、あれこれ思案してから、またお目にかかることにしよう。

※近似性とまではいえないが、オリヴァ・ホームズがシャーロックに言及している一例だけあげておく。

「親愛なるラスキ君……ただ残念なことにいい事件は余りありません。シャーロック・ホームズに匹敵する物語は最近ないです……」ワシントンD.C. 1932年4月9日。上掲書簡集、邦訳269ページ。さらに254、257ページを参照されたい。

(法学部教授)

研究者（教官・院生等）に対する国立大学図書館間 相互利用（館内閲覧）制度実施される

昭和54年度から国立大学図書館協議会は相互利用実施の検討を重ねてきたが、当館の山田館長も同理事会第二部会主査として制度実施の取りまとめを行ってきました。昭和56年第28回国立大学図書館協議会総会において「国立大学図書館間相互利用実施要項及び細則」が承認され、昭和57年1月15日から実施に移されることになりました。このたび、「相互利用共通閲覧証」の様式が定められ、相互利用参加館のリストを含んだ「相互利用の手引（加除式）」が作成されました。この制度の実施により、今後、相互利用参加を表明した全ての国立大学附属図書館中央館93館と分館、図書室を合わせた計280館において、自大学附属図書館長が発行する「国立大学図書館間共通閲覧証」を提示することによって他大学の図書館資料の円滑な相互利用館内閲覧が制度的に可能になりました。発行される「共通閲覧証」は当該年度内有効となります。

この制度の趣旨は国立大学に所属する研究者の研究・教育活動に資するため、国立大学図書館の所蔵する学情情報である図書、雑誌等の図書館資料が、研究者の共有の資源であるとともに、共同で利用されるべき性格を持つものであるという理解とともに、円滑な相互利用の促進をはかり研究者サービスの向上を目的とするものです。又、すでに相互利用の一形態である文献複写は昭和54年4月から国立大学図書館間で新しい方式に移行し、事務処理の改善等により複写物の入手が早くなり、年々件数が増加しています。相互利用（館内閲覧）制度についても研究者のかたがたの理解と協力と利用をお願いするものです。

なお、各大学の部局図書室等の利用は当該大学のそれぞれの事情により異なり、また種々利用条件がありますので、他大学図書館利用の際にはあらかじめ「相互利用の手引」や書誌事項（著者名、論題、出版年）、所蔵等の確認をしていただくようお願いします。公私立大学図書館の利用及び学生の他大学図書館利用については従来どおり「他大学利用願」を発行いたします。

共通閲覧証の発行及び所蔵調査等は 本館（閲覧第1掛、書誌・所蔵調査は参考掛）人科図理図 基図 中之島分館（参考調査協力掛） 微図 蛋図 吹田分館 産図 薬学分館の各カウンターで受付ておりますのでご相談下さい。

国立大学図書館間相互利用実施要項

（昭和56.6.23. 第28回国立大学
図書館協議会総会決定）

1. 目的

この要項は、国立大学に所属する研究者の研究・教育活動に資するため国立大学図書館に所蔵されている図書館資料の円滑な相互利用を促進することを目的とする。

2. 対象

この要項は、国立大学図書館協議会に加盟している大学図書館間における研究者による相互利用に対して適用する。

3. 定義

この要項における用語の定義は、次のとおりとする。

- (1) 国立大学図書館：各大学において附属図書館を構成する中央図書館、分館、部局図書館・室等をいう。
- (2) 研究者：国立大学に所属する教職員、大学院学生及びこれに準ずる者をいう。

これに準ずる者は、その者が所属する大学の附属図書館長が認める者をいう。

(3) 相互利用：研究者が他国立大学図書館に出向いて、その所蔵資料を直接利用することをいう。

4. 相互利用の範囲

相互利用の範囲は、館内における閲覧を原則とし、その方法は当該大学図書館の定めるところによるものとする。

5. 相互利用の手続

相互利用を希望する研究者は、あらかじめ所属大学の図書館長に申請し、「国立大学図書館間共通閲覧証」の交付を受け、利用時にこれを利用受入館に提示するものとする。「共通閲覧証」の様式は別に定める。

6. 相互利用の制限

利用受入館は、当該大学に所属する利用者の利用が著しく妨げられると判断した場合には、相互利用を制限することができる。

国立大学図書館間相互利用実施細則

1. この細則は、国立大学図書館間相互利用実施要項に掲げる目的を達成するために必要な事項を定めたものである。

2. 相互利用方式

要項にいう「国立大学図書館間共通閲覧証」による共通閲覧方式とするが、従来より実施中の他の方式を排除するものではない。

3. 国立大学図書館間共通閲覧証

ア. 様式は別紙のとおりとする。

イ. 有効期間は当該年内とする。

ウ. 本証利用上の注意事項の周知に努める。

4. 利用受入館

要項3の(1)にいう国立大学図書館であるが、当該大学の事情により、1大学で中央図書館のみが利用受入館となることがある。

5. 相互利用マニュアル

各館の利用上の留意事項を盛り込んだ相互利用マニュアルを全館が所持するものとする。

国立大学図書館間共通閲覧証申込書				
部局	学科	職名	学年	氏名
申込日	昭和 年 月 日 畜No.			
現住所	(〒) 方 Tel.			
備考	学内連絡先 Tel.			

注意 *印欄は記入しないで下さい。 大阪大学附属図書館

国立大学図書館間 共通閲覧証

*No. _____ 昭和 年 月 日

国立大学図書館協議会
加盟館長殿
大阪大学附属図書館長

所属 _____

身分 _____

氏名 _____

本学の上記の者から 貴館資料を利用したい旨、申し出がありましたので、閲覧の便宜をお取り計らい下さいようお願いいたします。

【有効期間: 昭和 年 3月31日まで】

〔本証利用上の注意事項〕

- 利用受入館の際には、本証と身分証明書あるいは名刺を提示して下さい。
- 閲覧利用は受入館の規則に従って下さい。
- 特に希望の資料を閲覧したい時は、前以って、その資料名を受入館へ連絡して下さい。当館へ連絡のための用紙を備えています。
希望資料の所在など不明な点があるときは、当館で尋ねてから出かけて下さい。
- 本証の記載事項に変更があった場合は届け出て下さい。

本証発行館電話

- - (ext.)

文部省配分外国雑誌購入費について

文部省は昭和52年以来、学術雑誌を集中管理し共同利用することにより、効果的に資料を利用することが出来るよう大学図書館の整備充実を目的として、自然科学系の外国雑誌購入費の予算配分を行なっている。本年度は昭和56年10月20日付で本学に予算配分があった。第1種(学内共同利用分)については、8,000千円(昭和55年度8,000千円)の配分があったが、予算の増加がなかったため雑誌の値上がり分を考慮して、雑誌購入を中止せざるを得ないものもあった。第3種(外国雑誌センター分)は43,000千円(昭和55年度37,000千円)の配分があり、3,272タイトルの雑誌の購入を行なった。本年度增加分6,000千円は、406タイトルの新規雑誌の購入にあてた。

なお、第3種については、他の医学、生物系拠点図書館である東北大学、九州大学の各医学図書館と十分調整の上タイトルを決定した。

昭和56年度上半期 国立大学図書館間文献複写実績

各国立大学、高専の図書館間で受付処理した文献複写のデータは年2回、本学図書館の複写データ処理センターに送付されるが、昭和56年度上半期分(56年4~9月)の計算処理結果を期日までに文部省及び各大学図書館等に送付した。

今期の各大学図書館、高専の受付処理件数は約69,000件で、前年同期(昭和55年上半期)に比べると約16%増、件数で約9,500件増加している。また、各大学図書館から送られてくるデータの内、記載等の不備なデータが依然として見うけられるが、今回、受付館コードについてのみ1枚1枚のデータに依らない形での入力方式に切り換えたことにより、処理過程における作業が改善されることになった。

教官著作寄贈図書

—本館—

赤井慧爾(言・助教授)

ハルトマン研究—「イーヴァイン」の文体
を中心に— 赤井慧爾著 (朝日出版社)

—中之島分館—

阿部 裕(医・教授)

細胞膜の病態:基礎と臨床 阿部 裕

[他]編 (喜多見書房 昭56)

倉智敬一(医・教授)

新産科学 倉智敬一[他]編

(南山堂 昭56)

宮井 潔(医・教授)

わかる内分泌学 藤田拓男編 宮井 潔

[他]著 (医歯薬出版 昭56)

山野俊雄(医・教授)

Flavins and flavoproteins. ed. by

Kunio Yagi & Toshio Yamano.

(Japan Scientific Societier Pr. 1980)

清水 章(医・講師)

生命の科学 7:免疫と生体防御 山村

雄一 清水 章共著 (培風館 昭55)

河村洋二郎(歯・教授)

Oral-facial sensory and motor functions. ed. by Yojiro Kawamura &

Ronald Dubner.

(Quintessence Pub. 1981)

岡田 宏(歯・教授)

歯科治療学 中 静正 石川 純編

(医歯薬出版 昭56)

作田 守(歯・教授)	(鳴海邦碩 研究会幹事)
歯科矯正臨床シリーズ1-4 作田 守 〔他〕編 (医歯薬出版 昭51-56)	(学芸出版社 昭56)
——吹田分館——	アンデス高地都市 鳴海邦碩〔他〕著 (刀水書房 昭56)
竹本喜一(工・教授)	白川 功(工・助教授)
積み木の化学 竹本喜一著 (講談社 昭56)	最新回路理論 基礎と演習 白川 功 〔他〕共著 (日本理工出版会 昭56)
中西重康(工・助教授)	花房昭静(産研・教授)
天国と地獄 P.Chapman 著 中西重康 訳 (みすず書房)	エッセンス有機化学、エッセンス有機化 学自習の手引と問題 J.M.Cram〔他〕著 花房昭静〔他〕訳 (廣川書店 昭56)
鳴海邦碩(工・助教授)	
都市デザイン 都市デザイン研究会著	

本館受入参考図書

(昭和56年10月~12月)

◇ 総 記 ◇

雑誌記事索引 人文・社会編 累積索引版
1975-1979 A 政治・行政 D 産業
F 教育・スポーツ K 文学・語学
(日外アソシエーツ)

古辞書・事典類目録
(京都外国语大学)

Directory of title pages indexes and con-
tents pages. by Woodworth, J.
(BLLD)

Great Soviet encyclopedia.
Vol. 25-26. (Macmillan)

◇ 歴 史 ◇

日本史小百科 12 政変 (近藤出版社)
朝鮮近現代史年表 「新東亜」編輯室編 鈴
木博訳 (三一書房)

日本歴史地名大系 5 秋田県の地名 18
福井県の地名、20 長野県の地名、26
京都府の地名、27 京都市の地名、30
奈良県の地名、36 山口県の地名、39
愛媛県の地名、42 佐賀県の地名
(平凡社)

角川日本地名大辞典 4 宮城県、5 秋
田県、7 福島県、11 埼玉県、16 富
山県、17 石川県、21 岐阜県、38 愛

媛県、44 大分県 (角川書店)

日本分県地図地名総覧、東京都地図地名総
覧、京阪神区分地図集、京阪神市街地図
集、奈滋和市街地図集 昭和56年版
(人文社)

中国分省地図 1918-1944年 複製
(凌雲書房)

◇ 社会科学 ◇

毛沢東著作年表 上・下
(京都大学人文科学研究所)

王安石事典 東一夫著 (図書刊行会)
日本の歴代知事 第2巻 上・下
(歴代知事編纂会)

Legal thesaurus. by Burton, W.
(Macmillan)

公文録目録 第4 自明治9年至明治11年
(国立公文書館)

Treaties in force. Comp. by the Treaty
Affairs Staff. (U.S.G.P.O.)

経済学大辞典 1-3 熊谷尚夫〔他〕編
第2版 (東洋経済新報社)

日本経済事典 金森久雄〔他〕編
(日本経済新聞社)

経済文献解題 1981年版 (ダイヤモンド)
長期経済統計; 推計と分析 3 資本ストッ
ク 大川一司〔他〕著、4 資本形成 江

見康一著、7 財政支出 江見康一、塙野谷裕一著、8 物価 大川一司〔他〕著、9 農林業 梅村又次〔他〕著、10 鉱工業 篠原三代平著、11 繊維工業 藤野正三郎〔他〕著、12 鉄道と電力 南亮進著 (東洋経済新報社)

World list of universities 1979—1981.

(International Association of Universities)

研究者・研究課題総覧 人文・社会科学編
補遺版、自然科学編補遺版

(日本学術振興会)

煙草文献総覧 和書之部 別録1—2 宇賀田為吉著 (たばこ総合研究センター)

◇ 自然科学 ◇

実用科学英語ハンドブックシリーズ 2
国際会議・討論及び座談・スピーチに必要な英語の決り文句集 (日興企画)

◇ 工学・技術 ◇

国際電気通信関係略語集 第4版 改訂版

(国際電信電話)

◇ 産業 ◇

英和・単位小事典 小泉袈裟勝編

(ジャパンタイムズ)

割賦販売法関係法令集 通産省編

(大蔵省印刷局)

◇ 語学 ◇

漢文の語法(角川小辞典 23)

西田太一郎著 (角川書店)

アメリカの雑誌を読むための辞書 坂下昇
〔他〕編著 (新潮社)

現代フランス語表現辞典 Robert Perreau
〔他〕著 渡辺香根夫〔他〕編訳

(大修館書店)

◇ 文学 ◇

20世紀イギリス文学作家総覧 2 劇、3

詩 青山富士夫編 (北星堂書店)

アメリカ文学研究必携 福田陸太郎〔他〕編著 (中教出版)

情報のつまみ食い

オンライン情報検索サービスに DIALOG システムを加えたことにより、人文・社会・自然系あわせて約120に及ぶデータベースメニューがわがチェーン・レストランの本店、中之島支店、吹田支店の店頭に並ぶようになった。これで各種の西洋料理の注文に応じられるようになり、情報検索の総合レストランに急成長を遂げた。

吹田店では DIALOG データベースに人気があり、特に材料、電気関係のメニューの注文が多い。しかし、困ったことにこれだけたくさんメニューがあると店としては、どれをすすめたらよいか、お客様の方もどれを食べてみようかと迷うのである。例えば“アルミニウム合金の孔食”に関する文献情報ということで注文を受けると、メニューの中から何を選んだらお客様に満足していただけるかである。COMPENDEX (工学全般)、METADEX (金属・材料) 及び WORLD ALUMINUM ABSTRACTS (アルミニウム) 等が適当なメニューとしてあげられるが、みんな注文すると食べきれないかもしれないし、料金も高くつく。さらに困ったことに、これら全ては材料 (情報源)、料理方法 (Indexing) 等が多少違うようだし、それに応じて味付 (検索効率)、量 (ヒット件数) も変ってくる。このようなお客様に対しては、つまみ食いコーナーが用意されている。関連ある複数のメニューをつまみ食いすることによって、お客様の味覚 (欲しい情報) に合ったデータベースを選んでいただこうというのである。つまみ食いは DIALINDEX といって、DIALOG の全データベースのファイル索引をひとつに集めたもので、欲しい情報に関するキーワードの使用頻度を提供してくれるのである。この頻

度数により、どのメニューを注文すべきか、食べてみたい情報があるかどうか、あるいは注文されたメニューを、どうアレンジ(検索戦略の展開)していくのかに役立つ。前述した例をとっ

```
? B411      29JUL81 0:38:03 USER60253
$0.21 0.006 Hrs FILE411
FILE411:DIALINDEX<TM>
(COPYRIGHTED BY LMSC Inc.)
```

? S FILES METALS

```
FILE8:COMPENDEX - 70-81/JUL
FILE32:METADEX - 66-81/JUL
FILE33:WORLD ALUMINUM ABSTRACTS - 68-81/APR
FILE99:WELDASEARCH - 1967 TO JUN 1981
```

FILE ITEMS DESCRIPTION

? S ALUMINUM<W>ALLOYS AND PITTING<W>CORROSION	(8)
3167 ALUMINUM<W>ALLOYS	
417 PITTING<W>CORROSION	
13 ALUMINUM<W>ALLOYS AND PITTING<W>CORROSION	
(32)	
1057 ALUMINUM<W>ALLOYS	
1596 PITTING<W>CORROSION	
21 ALUMINUM<W>ALLOYS AND PITTING<W>CORROSION	
(33)	
4695 ALUMINUM<W>ALLOYS	
489 PITTING<W>CORROSION	
61 ALUMINUM<W>ALLOYS AND PITTING<W>CORROSION	
(99)	
8 ALUMINUM<W>ALLOYS	
85 PITTING<W>CORROSION	
0 ALUMINUM<W>ALLOYS AND PITTING<W>CORROSION	

て、つまみ食いすると下記のような頻度数が得られた。したがって、つまみ食いの結果、WORLD ALUMINUM ABSTRACTS に注文していただけるかと思う。つまみ食いはやめてテーブルにつき、ナイフ、ホーク等で正式に召し上っていただけ

る。

つまみ食いは、同じような対象分野を提供するデータベースとか、学際的な領域の注文に対して有効な方法といえるのである。

(吹田支店 うまいもの案内人)

大阪大学附属図書館機械化準備委員会発足する

昭和47年から稼動している電算機の機種更新のために昭和54年11月～56年4月の間、機械化検討委員会を設置して、概算要求書作成のために検討を行ってきた。今回、昭和57年度電算機更新に際し、「学術情報システム」を踏まえた新たな図書館システムの作成のために事務部長の下に機械化準備委員会を昭和57年1月から発足させた。

今後、月約3回の委員会を開催して検討を行ない、5月末までに各業務の概要設計を経て、図書館業務電算化計画書を作成する予定である。委員会の構成は次の通りである。

主査 門田(吹田分館) 伊藤 石井 宮内 諏訪 谷田 山下 橋本(本館) 井関 茂幾 尾崎(中之島分館) 藤川(吹田分館)

なお、6月以降は機械化実施委員会を設け、さらに業務の詳細設計を行うとともに導入準備作業に入る予定である。

会議

— 分館長会議 —

56. 10. 12 (月) 15:00～17:00 (吹田分館会議室)

報告事項 1. 中之島分館長の選出について、北村分館長の任期満了にともない、中之島運営委員会(7. 13)で投票により医学部後藤稠教授が選出された。2. 吹田分館の増築計画について、計画案が吹田地区運営委員会及び工学部図書委員会で了承を得ているので図書館委員会の承認を経て、昭和58年度概算要求したい。

協議事項 1. 中之島分館の移転位置について、長期計画委員会吹田第二地区委員会での報告の結果と、計画案について検討され吹田第一、第二地区的計画に関連するので生物系図書館企画小委員会を再開して検討することになった。2. 大阪大学内の学術情報システムについて、第55次国立七大学図書協議会における議題の報告をもとに検討があり今後館長を中心に学術情報に詳しい関係者と懇談会を開いてゆくことが了承された。3. 文献資料センターの新設に関する基本的な考え方について、人文、社会科学系学部から要求のある文献資料センター設立に対する概算要求などについて意見交換があり、今後、図書館委員会にも諮る方向で進めるのが良策であることが了承された。

日 程

56. 10. 12.	分館長会議	(吹田分館)
56. 10. 27.	第52回日本医学図書館協会総会	(日本医科大学)
56. 10. 29. 30.	国立大学図書館協議会常務理事会及び第2回理事会	(京都大学)
56. 10. 30.	第16回国公私立大学図書館協力委員会文献複写委員会	(関西大学)
56. 11. 5.	第7回国公私立大学図書館協力委員会	(奈良県立医科大学)
56. 11. 17. 20.	文部省・大阪大学主催 大学図書館職員講習会	(吹田分館)
56. 11. 18.	自然科学系外国雑誌センター館事務打合	(本 館)
56. 11. 25.	昭和56年度第1回図書館職員研修講演会	(本 館)
56. 11. 27.	近畿地区国公立大学図書館協議会参考図書に関する委員会	(京都大学)
56. 12. 4.	学術雑誌総合目録データー協力委員会	(東京大学)
56. 12. 5. 6.	大学図書館教職員懇談会「大学図書館の展望と問題点」	(関西地区大学セミナーハウス)
56. 12. 11.	図書館事業振興法案を検討するための合同役員会	(日本図書館協会)
56. 12. 18.	新聞の分担保存についての会議	(本 館)
56. 12. 21.	昭和56年度第2回図書館職員研修講演会	(本 館)

館内の動き

昭和56年度第1回図書館職員研修講演会

理学部芝哲夫教授の“大阪大学の源流—懐徳堂、適塾、医学校、舎密局—”についての講演が昭和56年11月25日（水）本館視聴覚室で行なわれた。大阪商人、庶民の強い要望と援助で1726年懐徳堂が開放された経過から、1838年適塾が開かれる背景である大阪の学問的風土や、懐徳堂、適塾それぞれの学者の関連業績など中井履軒著“越俎弄筆”の例などをあげて常に先駆的な学問的風潮があり明治維新後、医学校、舎密局へと引継がれてきたこと、先生がオランダで探してこられた舎密局の教頭ハラタマの写真をスライドで見せていただくなど、大阪の地に旧い時代より深い学問的な気質があり今日の大坂大学がその流れの中に生きつづけているという実感を受ける有意義なものであった。

昭和56年度第2回図書館職員研修講演会

文学部信多純一教授の“書物のすがたと心—阿弥陀の胸割を中心として—”についての講演が昭和56年12月21日（月）本館視聴覚室で行なわれた。江戸期に出版された書物は紙の値により書物の形、大きさで価値がはっきりしていて型が内容と深い関係にあり書物の格や位が一致している、物の書屋が漢籍、仏書、古典など格式の高いものを出版し、草子の書屋は一般的な読物を出版してきたが、一般的に草子類は今日まで残されたものが少なく“阿弥陀”を例に種々の形で出版されていること、現在残っている数種類の本で比較されながら幾つかの出版されたものを合せてゆくことによって元の形態に複元することが出来ること、説経と淨瑠璃との関係などの説明、書物の形や姿が重要な学問的意義をもつことなど、書物をあつかう図書館職員にとって有意義なものであった。

Dialog オンライン情報検索デモンストレーション

オンライン情報検索の普及のために昭和56年6月に続いて、12月9日（水）～11日（金）の3日間、Dialogシステムを利用した2回目のデモンストレーションを行った。昨年4月から本館ではJOJSⅡ、Dialogシステムのオンライン情報検索サービスを行っているが、今回の実施にあたって豊中地区の各講座に案内を配付したことにより、教官、大学院生等が多数見え、盛況であった。初めての人はオンライン検索のやり方、言葉の選び方、データベースの種類など実際に見聞し得る所があったと思われる。

3日間の利用者は教官33名、院生等44名、計77名、主題別では自然科学系56名、人文・社会系21名であった。

本館閲覧スペースにカーペットを敷く

図書館施設改善の一環として、年末・年始の休業期間を利用して閲覧室の主なスペース(2,300m²)にループ・カーペットを敷き詰めた。階で色調を変え、1階は緑色系、2階は茶色系で各閲覧室の内部は雰囲気が変り、落ち着いたものになった。勉学環境が一層整えられ、利用者に大変好評である。



- 56. 10. 1. 所属換 井関 泰夫 医学情報課受入掛（目録掛）
- 56. 10. 16. フ 和久 真弓 医学情報課運用掛（閲覧課第三閲覧掛）
- 57. 1. 1. 転 任 吉田 美穂 閲覧課第二掛（兵庫教育大学図書課整理係）
- 57. 1. 1. 配置換 宮田 正徳 整理課受入掛（閲覧課第二掛）
- 57. 1. 1. 採 用 中嶋 聞多 医学情報課目録掛
- 57. 1. 1. 採 用 平井多美子 吹田分館運用掛事務補佐員（吹田分館目録掛）
- 57. 1. 18. 採 用 小坂 明子 吹田分館目録掛事務補佐員

訂正 前号(Vol. 15, No. 3/4 1981. 11) 5頁の附属図書館吹田分館運営委員会委員名簿は吹田地区の誤りでした。訂正します。